

【出題の趣旨】

文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる。

【千葉県の課題と関連する問題例】 2 五

【A】大切なことは、行動することが大切だと思います。

大切なことは、

※解答は、解答用紙に書き直します。

五 岩田さんは「下書き①」で、「A」の文の……部と……部と……部とがうまくつながっていないことに気がつき、この文を書き直すことにしました。文の意味が変わらないように、部とがうまくつながっていることに書き直します。

【下書き①】

提案します わたしたちができる「プラスチックの3R週間」

■ 知っていますか プラスチックごみの問題
わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができています。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くかえりかえりをおとしました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器的生産量は、1964年は1500万トンだったが、2014年には約1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。プラスチックは時間がたつと分解されなくなるだろうと考えている人がいるかもしれませんが、[けれども、

■ みんなで減らそう プラスチックごみ

わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前のように使うという考えを、そのため、プラスチックごみを減らすためにできることをしたいと思いました。そこで、わたしたちができる「プラスチックの3R週間」を提案します。3Rとは、ごみそのものを減らすリデュース (Reduce)、くり返し使うリユース (Reuse)、ごみを資源に換え、再び利用するリサイクル (Recycle) のことです。

わたしたち一人一人の力はとても小さいかもしれませんが、しかし、その力が積み重なれば大きなものになります。【A】大切なことは、行動することが大切だと思います。

② 岩田さんの学級では、生活の中で気になったことについて調べています。岩田さんは「プラスチックごみの問題」について調べ、ごみを減らすための行動について学級の友達に提案することにしました。次は、岩田さんが書いてある文章の「下書き①」と「下書き②」です。これらをよく読んで、あの問いに答えましょう。

【学習指導要領における領域・内容】

〔第3学年及び第4学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

【解答を導き出すために、子供に気付かせたいポイント】

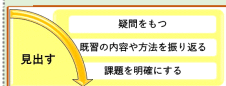
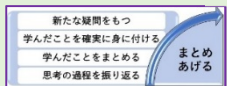
- ・「大切なことは」と「行動することが大切だと思います」とが照応していないことに気付くこと。
- ・「大切」という内容の重複があることに気付くこと。
- ・文の意味を明確に伝えるために、「大切なことは」に照応するように文を書き直すこと。

○関連する問題

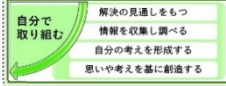
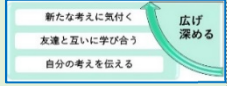
- ・ H27A 2 「文の構成を理解する」(正答率：71.9%)
- ・ H30A 5 「書いた文章を読み直す」(正答率：35.8%)

【授業改善例】

(4) 「生き物ブック」を仕上げて読み合い、学習の振り返りを行う。



(3) グループや学級で説明文を読み合い、感想や意見を伝え合う。



(1) 身近な生き物の特徴やひみつを伝える「生き物ブック」を作るために、わかりやすい説明文をどのように書けばよいか学習の見通しをもつ。

(2) 調べたことをもとに組み立て表を作り、説明文を書く。

これは学力・学習状況調査の問題に関わる指導事項です。本授業アイデア例では、単元全体のイメージを提案しています。この指導事項は主に「広げ深める」のところで触れています。



(1) 身近な生き物の特徴やひみつを伝える「生き物ブック」を作るために、わかりやすい説明文をどのように書けばよいか学習の見通しをもつ。

予想される子供の疑問：伝えたいことはあるけど、わかりやすく説明するにはどうしたらいいのだろう。
整理し、焦点化した疑問：組み立てを考えたり、図や例などを挙げたりすればよいのではないか。

➡ <課題> 調べたことや伝えたいことをどう整理すればよいのか、見通しをもつ。

(1) 学習のねらいを確認する。



理科でこん虫について学習しましたね。身の回りの生き物の特徴やひみつを調べて、読んだ人が「生き物博士」になれる「生き物ブック」を作りましょう。

ぼくが好きなトンボの特徴についてみんなに伝えたいな。でも、どう伝えたらいいんだろう？



教科等横断的な視点や実生活との関連を意識した言語活動を設定し、目的意識や相手意識とともに学習のゴールのイメージをもたせることが大切です。

(2) 生き物ブックの紙面例を読み、説明文を書く際に必要なことを確認する。

「調べたきっかけ」や「調べたこと」など、内容のまとまりごとに書かれていると読みやすいね。



説明している文と図の内容が合っているから、トンボの特徴がよく分かる。



言語活動の具体例を提示し、わかりやすい文章の特徴について考えることで、学習への見通しをもたせます。

トンボの目のおどろくべきひみつ

1. 調べたきっかけ

トンボは、図①のオニヤンマをはじめ、しゅるいが多く、身の回りでたくさん見つけることができるこん虫です。ぼくはトンボのとくちょうできな目が大好きです。そこで、トンボの目にはどんなひみつがあるのかを、本や図鑑を読んだり、本物の観察をしたりして調べてみました。



図①オニヤンマ

2. 調べたこと

(1) 「ふくがん」とよばれる目のつくり

トンボの目は、図②のようにたくさん小さな目が集まってつくられた「ふくがん」です。なんと、この小さな目は、1万個いじょうもあります。



図②ふくがんの様子

(2) なに見えているの？

(省略)

3. まとめ

今回トンボの目について調べてみて、40メートル先のこん虫の動きをみのがさな視力を持っていることを初めて知りました。

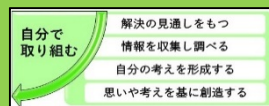
みなさんも、トンボを見つけた時には、その目の「つくり」や「見え方」などについて考えてみてください。

<出典>

『トンボのひみつ』(〇〇〇〇年、〇〇社)

『トンボ』(〇〇〇〇年、〇〇社)

生き物ブックの紙面例



(2) 調べたことをもとに組み立て表を作り、説明文を書く。

子供の「見方・考え方」：調べたことを説明するために、内容のまとまりや資料の使い方をどうしようか。
課題解決の視点や方法：段落の関係や資料の効果について検討するための組み立て表

➡ <視点> 内容のまとまりごとに段落を作る。目的に合った資料を選ぶ。

(3) 組み立て表を作る。



調べ学習で書いたメモを組み立て表に並べ、内容のまとまりの関係や必要な資料について考えてみましょう。

教師

肉球の図を使って、「つくり」や「はたらき」についてまとまりごとに説明しようかな。



カブトムシのツノのひみつについて伝えたいから、羽や足についてのメモは使わないでおう。



(4) 説明文を書く。



資料の題名などを表す「出典」を示したり、「図②のように」という表現を使ったりして、資料と文章が結びつくようにしましょう。

書いた文の主語と述語がぴったり合うように書きましょう。

内容のまとまりや伝えたいことを意識しながら、説明文の構成について考えたり、情報の取捨選択を行ったりできるようにすることが大切です。

「説明する文章を書く」の大切なポイント

- 内容のまとまり
- 文章とつくりが合っている
- 出典をしめす
- ・ 題名
- ・ 発行年
- ・ 発行所
- 「図②のように」
- 理由やれい
- 主語と述語

新たな考えに気付く
広げ
友達と互いに学び合う
深める
自分の考えを伝える

(3) グループや学級で説明文を読み合い、感想や意見を伝え合う。

主体的に学び合う姿: 友達と感想や意見を交換し、自分の説明文を見つめ直す。
考えをつなぐ手立て: 「相手に伝わりやすい説明文」にするために必要な感想や意見を取り上げる。
→ 〈展開〉文を整えるためのポイントを、例文を用いて具体的に説明する。

(5) 説明文を読み合い、意見や感想を伝え合う。

(2) 肉球のはたらき

一番のとくちょうは、高いところから飛びおりてもしょうげきをやわらげることがとくちょうです。

令和2年度調査問題から

大切なことは、行動すること
が大切だと思います。
大切なことは、行動すること
が大切だと思います。
大切なことは、行動すること
が大切だと思います。

主語と述語の
関係、言葉の重複
のように順を追
って考えていく
と分かりやすくな
ります。

「後ろの部分の『行動することが大切だと思います。』を変えない場合、前の『大切なことは、』の部分をもどのように書き換えたらいでしょうか。」といった発問も有効です。

内容のまとまりや資料の使い方がとってもよかったです。でもこの文章だけ読むと変な感じがするんだよね。

あっ！文の最後の「です。」の前に「とくちょう」があるから「とくちょうは、～とくちょうです。」となってるんだ。一つの文に「とくちょう」という言葉が2回出てくるから、変な感じがするんだね。気付いてくれてありがとう！

そうか、「一番のとくちょうは、高いところからとびおりてもしょうげきをやわらげることです。」にすればいいんだね。



文を整えるためには、主語に対応する述語を確認することが大切です。同じ言葉が一つの文に2回出てくるときは注意が必要です。

子供たちの気付きを大切にしながら、主語と述語との対応や言葉の重複に着目できるようにしましょう。書く活動を行う際には、推敲を行う習慣をつけることも大切です。

新たな疑問をもつ
学んだことを確実に身に付ける
学んだことをまとめる
思考の過程を振り返る
まとめ
あげる

(4) 「生き物ブック」を仕上げて読み合い、学習の振り返りを行う。

自分の思考の振り返り: わかりやすい説明文を書くために大切にしてきたことは何か。
考えを整理させる視点: 内容のまとまり、資料の使い方、主語と述語との関係。
→ 〈整理〉伝えたいことを明確にし、読む相手を意識しながら書くことを意識させる。

(6) 「生き物ブック」を読み合い、振り返りを行う。

みんなの説明文を読んで、今まで知らなかった生き物のひみつをたくさん知ることができました。文章も読みやすかったし、資料もとてもわかりやすかったです。出典に書かれていた図かんを読んでみたいです。

友達の説明文を読むことで、新しい発見や疑問が生まれてきたようですね。この学習を振り返り、がんばったことやよかったこと、これから生かしていきたいことなどを書きましょう。

「生き物ブック」を読み合う活動を行った後、単元での学びを振り返る活動を行います。

教師にとっても、一人一人の児童の学びを把握することができる材料となり、評価や授業改善につなげることができます。

自分の言葉で学習のまとめを書く

さいしょは、しらべたことを全部書いてしまいたい。「ツノ」とかん係のないことでもいいんじゃないかなってしまいました。かん係ないものをけすたら伝えたいことがはっきりしました。

主語とじゅつ語がうまく合わなくてこまっていたけれど、友だちが気付いてくれたので、直すことができました。これからは、同じ言葉が2回出てきたら気を付けたいと思います。

〈関連する場面〉

「ひろがる言葉 三下」 教育出版 文の組み立て
「あおぞら 国語 三下」 光村図書 修飾語を使って書く
※単元づくりの参考とした教材
「ひろがる言葉 三上」 教育出版 クラスの「生き物ブック」を作ろう
「あおぞら 国語 三下」 光村図書 食べ物のひみつを教えます

〈関連する問題〉

設問五
H27A②二 主語と述語との照応関係
H30A⑤ 書いた文章を読み直す